

8月19日（土）、雨天のため「郷土芸能かがり火の舞」は屋内での開催となり、出演予定だった白澤鹿子踊と大槌城山虎舞は、おしゃっちで演舞を披露しました。

この日、京都市出身で大槌町地域おこし協力隊の北浦知幸きたうらなちゆきさんは、白澤鹿子踊を初めて披露しました。

「ありがとうございました」訪れてくれた人たちに深々と頭を下げ、達成感のある笑顔を見せた北浦さん。地元では郷土芸能と関わる機会



肌で感じる 白澤鹿子踊

が無く、「郷土芸能かがり火の舞」が白澤鹿子踊を知ったきっかけ。昨年3年ぶりの開催となった大槌まつりで、白澤鹿子踊の旗持ちを手伝ったのが縁となり活動に参加していると言います。「踊った後の達成感や楽しさが、町内外の多くの人たちを惹きつける魅力がある。大槌まつりも見ただけではなく、参加して祭りの熱気を肌で味わいたい」と、大槌まつりへの意気込みを語りました。

町民のみでなく、町外の人の心を掴み、さまざまな形で紡がれる大槌町の郷土芸能。「大槌まつり」にも多数の郷土芸能団体が出演する予定です。多くの人を魅了する郷土芸能を、肌で感じてみませんか。



舞いを披露した後に笑顔を見せた北浦知幸さん



70年の歴史 祝いの踊り

「郷土芸能かがり火の舞」に出演した団体「雁舞道七福神」。今年で70周年を迎え、七福神の「7」の節目を祝う記念祝賀会が、5月21日（日）に三陸花ホテルはまぎくで開催されました。

1953年（昭和28年）に始まったとされる七福神の踊りは、太鼓や笛などの音色と、テンポの良いおはやしに合わせ、子どもたちがリズムカルに踊る郷土芸能です。町内で唯一、雁舞道地区で伝え続けられてきました。

東日本大震災では、津波によって保存会「雁舞道七福神会」の会館が被災し、練習場や山車などを失いました。渡辺裕人わたなべゆうと会長は、「震災津波があり、自分自身、続けていけるか考えられる状況ではなかった。見たという人がいることを知り、どう



にか避難所で踊りを披露できたとき、大勢の人が喜んでくれた。それが忘れられない。この踊りを無くしてはいけないと思い今がある」と当時を振り返ります。

震災後に使われている山車は、全国からの寄付によって造られたものです。「全国からの支援のおかげで、今も活動ができています。これからも頑張っているところを見せて恩返ししていきたい」「この踊りを途切れることなく未来に語り継いでいくため、踊り手だけでなく、教え手の育成にも力を入れ、変わることなく伝え続けていきたい」と、更なる活動への意欲と七福神の踊りへの思いを語りました。

9月15日（金）～9月17日（日） 大槌まつりを開催します！

今年は13年ぶり、大槌川渡御が復活！



詳しくは、
折り込みチラシを
ご覧ください



移住定住 WEB サイト 「ココカラオオツチ」 ほか SNS で情報発信

▶ WEB サイト

大槌町の暮らしについて紹介しているほか、空き物件情報や地おこ募集の情報なども掲載



▶ インスタグラム

▶ ツイッター

▶ ライン



▶ フェイスブック



ぜひ活用して大槌の「居・色・自由」を楽しみましょう！